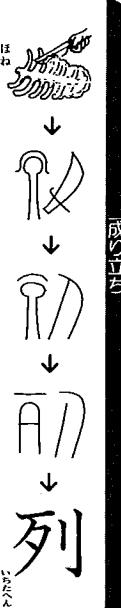


列

三年 筆順 オン レツ 画数 6 成り立ち



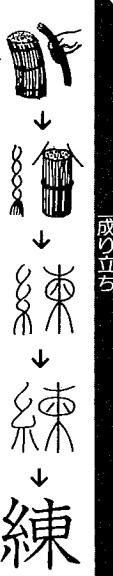
「骨」という字の「ぶ、骨のつなぎをあらわした『列』と、刀の形をあらわした『列』とを組み合わせて作った字です。

食用にするけもののにくをりようりするために「にくを骨から切りとる」ことをあらわした字です。このとき切つたにくをきちんとならべますので、「ならべる」というみにつかわれます。

また、「ならんだもの」や「ならんだ形」のことを、「列」といいます。また、「多くのもの」というみにもつかわれます。

練

三年 四画
筆順：絹縋紳練
画数 14
例：
オノ
レン
クン
ねる



成り立ち

「東」と「八」とで「東をえり分ける」というみをあらわした「東」と、「糸」とを組み合わせて作つた字です。

「糸をえり分ける」というみの字ですが「りつぱな糸を取ること」をあらわしたもののです。

まゆから取つた糸を、あく汁で煮ますと、糸がしなやかになり、つやが出ます。この「あく汁で煮ること」を「ねる」と言います。練は「糸を『ねる』こと」を表した字です。**例練り絹。**

「良い物をえり分ける」というみに使います。**例精練。**

同じ事をくり返し行うことによつて「熟達する」ことのいみにも使ひます。**例練習、熟練、洗練。**

△きのう、みんなで上野うえのどうぶつえんへ行きました。どうぶつえんは人でいっぱいで、とくにパンダのおりの前は人が列を作つてならんでいました。

△うんどう会のれんしゅうで、整列のけいこをしました。きちんと列を作るのは、おもつたよりもむずかしくて、なん回もれんしゅうしました。

使いつ方
△整列（列を作つて、きちんとならぶこと。）

△行列（たくさんの人があらんだ列。「魚さんは、さよなは大安売りなので、お店の前には行列ができるいました」などというふうに、つかいます。）

△列車（いくつかの車りょうをつないで作った、電車や汽車）

△列島（つながつてならんでいる島。「日本列島は四つの大きな島と、たくさんのかな島々からなっている」などというふうに、つかいます。）

△陳列（人に見せるために、なにかをならべておくこと。「ショーケースの中には、めずらしいこん虫のひょう本が陳列されていた」などというふうに、つかいます。）

△剣道（うでをみがき、読書で心を練ることに努めようと思ひます。）

△練り糸（生糸をあくで煮て、しなやかになり、つやが出ます。）

△この文章は、よく練られていて、むだなことばがありません。

△使い方

△絹糸を練ると、しなやかになります。

△この文章は、よく練られていて、むだなことばがあります。

△練り糸（生糸をあくで煮て、しなやかでつやのある糸にしたものです。）

△精錬（纖維を煮て不純なものを除き、純度を高めること。精は純度の高い糸。純粹なこと。）

△練習（習は同じ事をくり返して行うこと。物事に熟達するよう、同じ事をくり返して行うこと。）

△熟練（同じ事をくり返して行うことにより、物事に熟達すること。**例機械の製作に熟練する。**）

△訓練（指導による練習。**例学校で体育の訓練を受けた**結果、運動に自信がもてるようになりました。）

△洗練（練習によつて能力が向上すること。感覚が優雅高尚になること、人格が円満になることなどのいみに使われます。**例洗練された人がら**）